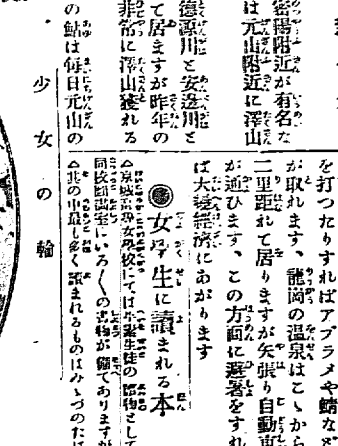


した。この時、
米國の獨立等に當つて思ふのは彼の櫻の木を以つて
日、フィデル・フイアの獨立國の爲めに戦ひました
籠に於て公にせられたる。後米米國は、千七百
獨立宣言書の頒布當日である十八三年九月二日にベルサ
星旗に民の肩鉤る。



其分引能たるものゝ如く一俵
 の小口竝に對してはチーイーの
 圓六十ワエキス十三個を唱
 るゝに至り事實取引は果して
 の如き証數なるや否や知り得
 ぬに而して此邊の手段なり

正米保合一賣り物は極富と云ふ
あられざも餘り乏しからず賣人
多少賣り流りの相向なれども阿
漢口には本邦正米不況に連れ引合
ざる折柄なれば當地に於て特米口

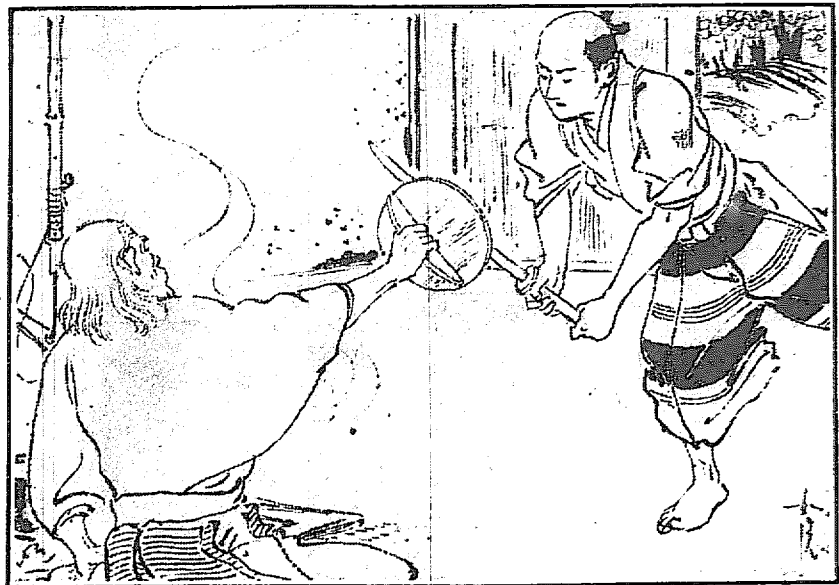
本日茶番本所に吹き聞
一時別合を唄へり内蔵
ては、**稱注文入込**
形勢あり大坂の銀十
圓六錢を報じ
すてすらうとさし
かゝるに、**一**すき
の**二**角に**三**あるか
知れぬ。去つて押
した邊、まづは飛
代に過ぐる時代
に推せらる。

宮本武藏

第八十八回

浪桃川如燕口演
上義三郎速記

伊東友兵衛は典廩の様子を見たが、如何にも通ぬ女附者。未の見込があると思つたから、友、其方が折角の望み故、門にも致さうが、兎もあれ其方の技倆を見よう、其の木鐮を以て打つて見よ、俺れは此の鎧の蓋を以て對手を致す」と聞いて典廩怒るゝた得物もあらうに鎧蓋をして對手をするに足らぬと思つたが、典廩は度度をして右の木鐮を持つて、典廩は「はなむす」と大上段に振返つたら、極意を御教授に預りたく、此段伏して喚ひ奉つる」と聞いて友、孝老人、典廩の言ふ事を熟々聞いて居りました。友、左様か、是まで何人か、つても皆な斷絶つたが、其方は見える處があるから、與、知した、如何にも教へて遣はさう、典、相續させ合ふて居ます、就きまして何年程お稽古を授けました出來ませう、友、さうさう、修業といふものは死ぬまで修業で、何年といふ決して限りは無い、



友某は鑓蓋を取つて中殿に擡へ、友「サア打つて来い」と聲から附けて居たが打込めない、其内左りの肩先に鑓が嵌が見えたるから典勝は典「免免」といつて打下した木鐸をヒラリと身を翻して友某老人、持てる鑓蓋に手を持ち、友「エイッ」と氣合ひを懸けて木鐸を打落し、右の鑓蓋にて確かり押へ、友「何うちや典勝、恐れ入つたか、典勝れ入りました」と後へ退つて平伏をした。鑓蓋を持つて居る手が延びて居れば兎も所、延びないから惡くすると眉間を破られますから、ソで恐れ入つたのでございませう。此處を見切つたのは典勝も中人出來る者であるが、友某の目から見たら全で小兒同様の仕末であります。典勝は愈々恐れ入つて、典「此上は金太郎のお手許にあつて鐵道の所蔵見返がないから、他へ轉じよ

物の程の開くまでは先づ十年であうかな、典「十年、十年とは長いけれども自分の心得では、二年か三年の間に何うか通れる技術になつてしまふぢと思ひますから」「エイ、生如何でないせう、寝食を怠つて勉強いたしましたら、本さうさ三千年代な、典「エイ、朝夕暇なお世話を願ひまして、友「さうさ、お心を入れてやつたら四五十年掛かな」「典勝驚ろいた段々長くなる黙つて居る方が宜い、典「何分勵みます、友「ソで典勝、斷はつて置く」其方の心に暇などを取る事にはなぞ、今日から差許すといふより、武藝の誼をしても可なり、典「エイ」友「其から物に従きて常所に居ても上は金太郎のお手許にあつて鐵道の所蔵見返がないから、他へ轉じよ

師を取替へやうなぞいふ氣が出る
と、人相に現はれる、スルと其方を
切捨るから左様心得、典へ五七
の手許に居て辛苦をしなければ修行
にはならん、サア典膳早速に水を
を汲んで来なければいかん、此の流
れは可かんぞ、彼方の谷間の清水
を汲んで来い、典と哭まりました、友
から清水を造らうと、其が齊に其
所を叩く、其後、自然著を掘りに委
るのだ、何う用のある事大哉、典
膳敦賀の山の中、掘場に來たやうな
もの、三日経つても十日経つても、劍
櫛の証しもしない、ソレ典膳水だ、
ソレ骨中を叩けば、どうも一人て掘
いて居る、一月半ばかり経つて典膳

產婦科 一宮醫院
醫學士 二宮亮吉
京城芬町四一
電話二〇二番

ガツカリして終つた。是はいかない先生を、^お磯をして、^お劍橋を忘れて終つたのだから、下山をしようかしらん、イヤ、此處斷つてゐた、慢ぎて下山をしようなどいふ氣が出来る人相に現はれるさうすると切るといつた事に寄るゝその締切緊なない、困つた事が出来た、第一聲が斯んな生に生れて了つた、前に行くのは大變だし、ア、少し抜かう」と用意の毛振があつたから、岩角（腰）を掛て谷川の流れ、山間の風景を見ながら、興膳を抜いて居ります、樂をして居りました友藏先生目を開いて目と居るゝ、精出して聲を抜いて居る、友藏は、キヤラメル坊や（電話二七〇）やア、バンバン木村屋の

[illegible][illegible]

新東京式お化粧料
粉白トー

美しい湯上りの化粧

湯上りにつけた
 レート水白粉

レート水白粉は眞實に涼しさうで上品なお化粧藥が致し、
 眠に白く附くのではなく爽床しい白さで、落附があつて斑がな
 く、そして決して化粧崩が致しません。其上香氣までが床し
 う人目を惹き夏のお化粧に此上もなく相應しう御座います。

レートチエリを白粉下にすれば一入緩れたお化粧藥が致します。



他の白粉では迎も及ばぬ
シート白粉は新東京式お化粧料
 として非常に流行して居ります

東京平尾贅平

一滴で
一日爽快なる

ワグネル香水

世界百花の精を集めて
清新な露りは意氣で充ち
何で何人にも愛用せらる

丹不面會堂



大改善せらる
美滿津製ラケット。

新。亦先般販賣のレキュレーションボール（図）
は、開内外人間に高酔を傳し居れば此
れもクツトミ共に御愛用を給はんこと
を希望し。

定價表は仰申越次第送致致します。

東京市本郷區
本郷五丁目

美滿

中神身
涼味真解
金言
人自己
の運命の建
築者なり
(西誌)

特別
新吉原
の
娼制
精刷
局著

[illegible][illegible]